

2018年(平成30年)8月14日(火曜日)

「中止させるなら私を殺して…」

三島駅前 事業めぐり市長発言



「中止させるなら私を殺してからにしてください」と述べ、打ち首を待つようなポーズを取る豊岡武士市長 = 7月23日、三島市役所で

三島市のJR三島駅南口東街区の再開発事業をめぐり、豊岡武士市長が反対派の前で「中止させるなら私を殺してからにして」と発言し打ち首を待つようなポーズを取った問題で、市長への抗議を中心としたメールが市に殺到している。十三日午後五時時点で、メール三十九件、手紙一件が届いた。豊岡市長は本紙の取材に「不快な思いをした人がいるかもしれないが、再開発の重要性を、理解いただきたい」と答えた。(佐々間博康)

抗議メールなど殺到

問題の豊岡市長の言動は七月二十三日、再開発の中止を申し入れた反対派との論争がヒートアップして飛び出した。豊岡市長は同日二十七日の記者会見で「不退転の決意を示したかった」と弁明していた。市三島駅周辺整備推進課によると、内容の内訳は市長への抗議が二十三件、市長への賛同・応援が三件。市の再開発事業に対する反対・懸念が十五件、再開発への賛成が三件だった。

市長への抗議では「子供じみた態度だと感じた」「首長がとる態度ではない」と厳しい意見が多い。賛同・応援では「熱意を感じた」という声があった。再開発に対する懸念では「高層マンションは約百メートルの高さも必要なのか」「地下水を大切にしたい」「反対派と話し合って進めて」との意見があり、賛成では「一部の反対派に負けずに進めて」という声があった。メールは今年九日の関東

向きの報道番組や十日の全国放送の情報番組などでこの問題が取り上げられて以降、急増した。三十九件のメールのうち三十二件は九日夕方以降に届いた。豊岡市長は「番組では再開発の経緯や私の思いが伝わっていない」と指摘。自らの言動を撤回する考えはないとした上で、「市の発展と市民の幸せのために全身全霊をかけて取り組む」と述べた。

東街区の再開発事業は、現在駐車場の市有地と民有地計一・三公顷、二〇二五年一月ごろ商業施設や高層マンション、駐車場を整備する。総事業費二百二十億円。市は六十二億円を負担する。市は今月下旬に地権者らでつくる準備組合、最優秀提案者のミサワホームが代表の共同企業体(JJV)と協定を結び、事業を本格的に進める方針を示している。

十二日九日告示、十六日投票の三島市長選には、三期目を目指す豊岡市長のほか、再開発の中止、見直しを掲げるとともに新人の県議員宮沢正美さん(公)と会社役員石井真人さん(公)が出馬を表明している。再開発推進の是非が最大の争点となる見通しで、豊岡市長は二期目の成果として再開発にめどを立てて選挙に臨もうとしている。

「市民合意、資金は…」再開発の問題考える 三島でシンポ 三島市が進めるJR三島駅南口東街区の再開発事業の問題点を考えるシンポジウムが十三日、同市一番町の三島商工会議所で開かれた。十一月九日告示、十六日投票の三島市長選に立候補を表明している新人二人が出席し、市民合意や財政などの観点から事業を批判した。

出席したのは、県議員宮沢正美さんと会社役員石井真人さん。事業を推進し、三選を目指して出馬表明している現職の豊岡武士さんは欠席した。宮沢さんは「事業は市民合意が得られてなく、県や国との協議も不足しているから実現性が乏しい」と指摘。「広域的な交通結節点としての機能を取り入れた

日投票の三島市長選に立候補を表明している新人二人が出席し、市民合意や財政などの観点から事業を批判した。

出席したのは、県議員宮沢正美さんと会社役員石井真人さん。事業を推進し、三選を目指して出馬表明している現職の豊岡武士さんは欠席した。

宮沢さんは「事業は市民合意が得られてなく、県や国との協議も不足しているから実現性が乏しい」と指摘。「広域的な交通結節点としての機能を取り入れた

整備をするべきだ。市民を加えた協議会の設置も必要」と訴えた。石井さんは「市は人口も税収も減っているのに、事業の資金計画を甘く見積もっている」と主張。「三島駅の南北自由通路建設や市役所庁舎の建て替えなど、本当に必要なことにお金を使わなければならない」と意見を述べた。

シンポは再開発事業に反対する「三島駅南口の整備を考える市民の会」が主催し、約二百五十人が来場した。(杉原雄介)



再開発を批判する宮沢正美さん(左)と石井真人さん(右)ら三島市で